公益社団法人日本女子体育連盟　平成 30 年度総会議事録

日　時：2018 年 5 月 27 日(日)　13:15～16:20
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター　国際交流棟・第１ミーティングルーム

１．開会宣言　八木ありさ副会長
２．あいさつ　髙橋和子会長、村田芳子顧問、髙橋眞琴参与、林眞幾子参与
３．出席者および書記の確認
＜議決数＞　正会員（加盟団体代表）：出席 12 団体、委任状 13 団体
特別会員：出席 42 名、委任状 123 名
計　190 名／299 名　　(※定款 16 条･･･現数の 1/2 により 総会成立)
＜出席実数＞　顧問１名、参与２名、監事１名、名誉会員１名
正会員（加盟団体代表）14 名、特別会員 42 名　　計 61 名
＜書記＞　　田中安里特別会員、多田五月特別会員
４．議事録署名人の選出　髙橋和子会長、岡本悦子岡山県女子体育連盟代表、宮本乙女特別会員
５．議長選出　　議長に髙橋和子会長を選出
６．議題
（１）報告事項
１）会長報告
髙橋和子会長より、資料に沿って報告された。
①慶弔・表彰等関係
顕彰／第６回 JAPEW 功労賞・岡部和子氏（山梨）、島袋厚子氏（沖縄）、永野美代氏（高知）
第 14 回 JAPEW 指導者賞・牛山眞貴子氏（愛媛）、加藤惠津子氏（東京）、斎藤淳子氏（千葉）
鈴木裕美子氏（福島）、古田裕子氏（新潟）
弔意／林信恵先生（元大阪女子体育連盟会長）偲ぶ会　香料　1/7
ＩＡＰＥＳＧＷ　ローザ会長ご主人ご逝去　哀悼のメール
②後援・協賛承諾および役員等応嘱関係
応嘱／(公財) スポーツ安全協会 理事及び副会長－村田顧問
（公財）日本体育協会　監事－村田顧問
（公財）日本体育協会　評議員－林参与
（公財）日本体育協会・全国スポーツ指導者連絡会議　代表委員－笹本参与
（公財）全国大学体育連合 大学体育関連情報調査チーム研究員－飯田常務理事
日本スポーツ体育健康科学学術連合　監事－細川副会長
日本体育学会理事－髙橋会長
後援／ 日本教育シューズ「足育研修会」
第 25 回ねりま体操フェスティバル
第 56 回全日本学生なぎなた選手権大会（及び大会顧問）
第 12 回子ども身体運動発達指導士養成講習会
アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ 2017
第 19 回なかの国際ダンス・コンペティション
体操フェスティバル 2017 OSAKA（及び大会顧問）
③補助金関係
(公財) ミズノスポーツ振興財団／女子体育振興助成金交付　¥1,000,000
(公財) スポーツ安全協会／助成金交付　¥500,000
日本教育シューズ学校体育振興基金／助成金交付　¥250,000

④研究および会議出席等関係

・研究関係／本部と加盟団体との共同研究（詳細は事業報告参照）

継続／鳥取県女子体育連盟　研究テーマ「インクルーシブシステムとしてのダンス学習の可能性」
（共同研究者：髙野牧子）

・会議等出席関係

全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)運営委員会　4/22,6/11,7/8,8/7,10/8,11/22,12/9

IWG Annual General Meeting(IAPESGW代表代理として)　八木副会長 4/7-8

Women Sport Leadership Conference　八木副会長　4/9

(公財)日本体育協会 加盟団体事務局長会議　内田事務局員 4/13

平成29年度体力つくり国民会議 八木副会長 4/21

日本スポーツ体育健康科学学術連合総会出席　細川副会長（同連合監事として）6/10

(公財)日本体育協会平成29年度臨時評議員会に出席　林参与（評議員として）7/18

ICSEMIS運営委員会 第１回会合 田中葵 国際交流専門委員会委員長 3/31

⑤主催、共催事業関係（詳細は事業報告参照）

インターナショナル・ダンス・ワークショップ 4/30

第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）8/7,8,9,10

JAPEW SUMMER SEMINAR 2017（教員免許状更新講習会を含む）8/12,13,14

JAPEW-DMIL（ダンスムーブメント指導員）Ａ・Ｂ・Ｃ級養成および検定講習会　9/16,17,18

JAPEW-DMIL 指導員クリニック　8/14

第51回全国女子体育研究大会（鳥取大会）11/24,25

ダンスムーブメントセミナー2017 in 山口 2018.2/17,18

第61回未来世代の研究発表部門＆卒業ダンス作品発表部門　2018.2/11

⑥連盟関係

内閣府へ定期提出（事業計画等）3/31

全国理事会　5/13、2018.2/11

JAPEW賞選考委員会　（敬称略）

功労賞　　5/28　出席委員：会長、笹本、杉山、片岡、髙橋眞、林、石澤

指導者賞 5/28　出席委員：会長、細川、林、飯田、佐藤、小松、(山西；書面対応)

平成29年度総会　5/28

内閣府および(公財)日本体育協会／28年度事業報告・29年度事業計画・財務諸表等届出　6/30

正会員懇談会（鳥取）　11/24

⑦その他

「日本体育協会名称変更趣意書（仮称）案に関する意見等について」提出 4/12

18th.IAPESGW World Congress (Miami Barry大学)視察、高橋眞琴参与「Audrey Bambra Legacy賞」受賞 5/17-21

スポーツ庁参事官(民間スポーツ担当) 由良英雄氏に連盟活動の紹介　6/23

平成31年度全国女子体育研究大会&DMIL関係会議

髙橋会長・細川副会長・長津東京都女子体育連盟会長 7/10

大前光市氏への連盟会長推薦状: 米ラスベガスのショーのＮＨＫドキュメント01 ビザ
（芸術家ビザ）　髙橋会長

日本学校体育研究連合会本村会長にJAPEW事業の後援依頼　髙橋会長　7/23

「JAPEW-DMIL･Ｓ級指導員」創設について28年度に検討し、29年度サマーセミナーにて山田喜美江氏、佐野暎子氏、矢野道代氏をＳ級指導員として認定されたことを受講者に報告 8/12

Trinity Laban Conservatoire of Music and Dance, SARA MATTHEWS ダンス学部長来日
髙橋会長 10/26

ふれあいリズムダンス審査員　村田顧問　12/26
ＮＨＫ主催・アマチュアスポーツ関係者新春懇親会出席：髙橋会長・細川副会長 1/10
日本教育シューズ主催　新春懇談会：佐藤常務理事・飯田常務理事　2/2
『(公社)日本女子体育連盟学術研究第 34 巻』刊行
第 34 巻を電子ジャーナルとしてＪ－STAGE に公開予定

２）平成 30 年度事業計画（別紙資料）
髙橋和子会長より、資料に沿って報告があった。

３）平成 30 年度事業予算（別紙資料）
細川江利子会計担当理事より資料に沿って報告があった。

４）会員の承認（別紙資料）
・寺山由美庶務担当理事より資料に沿って報告があり、承認された。
・複数年会費未納者について、定款の規定により、資格喪失になる事が確認された。

（２）審議事項
髙橋和子会長より、以下の事業について活動報告があり、全会一致で承認された。

１）平成 29 年度事業報告
DVD 映像による活動報告があった。

Ⅰ.内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

(1)関連研究プロジェクト　（髙橋会長）
〇研究タイトル
『女子中学生の運動習慣の向上 －ダンスプログラムを通して－』
〇申請者／細川江利子（埼玉大学）髙橋和子（横浜国立大学）笹本重子（日本女子体育大学）髙野牧子（山梨県立大学）飯田路佳（十文字学園女子大学）八木ありさ（日本女子体育大学）笠井里津子（日本体育大学）佐藤廣子（竹早教員保育士養成所・非）
〇研究背景：研究背景:子どもの豊かな運動やコミュニケーションの乏しさによる弊害が叫ばれて久しい。特に、中学校女子では「1週間の運動時間0分が67.9%もいる」との報告がある（文部科学省平成26年度調査報告書）。この現状への対応策として、全国の中学生1万人への調査結果では、中学校女子はダンスを肯定するとともに、褒めて指導すれば運動意欲が喚起されることが明らかになった（髙橋和子2015）。子どもの体に起きている異変の早期発見と対処のため、文部科学省は2016年から健康診断項目に「運動器（体を支え動かす役割をする体の器官の総称）に関する検診」を追加した。運動器の機能を改善する方法としてはストレッチやボディワークなどの有効性が報告されているが、特に女子中学生が好む傾向にあるダンスも有効な手立てとなるのではないだろうか。そこで、本研究では女子中学生を対象とし、楽しく体を動かすことを習慣化して運動器の機能不全に対処できるようなダンスプログラムを開発し、その有効性を実証することを目的とした。
〇研究報告：2年目の平成29年度は、ダンスプログラム（試案）を作成し、女子中学生への介入実験等により有効性の検証を行った。

(2)加盟団体との共同研究　（髙橋会長）

以下の共同研究を実施した。

(継続) 鳥取県女子体育連盟（共同研究者：髙野牧子）

研究テーマ「インクルーシブシステムとしてのダンス学習の可能性」

〇結果:ダンス学習の特性である「互いの良さや違いを認め合う」を実感できる指導の可能性と、校種間さらに社会との連続性を探求することを目的に、全国大会では「つながり・個性と世代をつなぐ　そして未来へ　ーインクルーシブ教育を考えるー」をテーマに掲げた。障がいのあるなしに関わらず誰もが、生涯にわたる自分の生き方を考えていける教育のための、学びの繋がりを目指し、分科会を保幼小連携、小中連携及び、学校から社会への３分科会とした。学校間の連携では、指導者がつくる「認め合い、発揮し合う学びの環境」を連続させることの重要性、また学校から社会への繋がりでは、生涯にわたって学び続ける手がかりとしての学習内容の提示の必要性が明らかになった。

(3)全国女子体育研究大会

第51回全国女子体育研究大会(鳥取大会)　□高野常務理事、佐分利理事

期　日　2017年11月24日(金)・11月25日(土)

会　場　伯耆町立岸本小学校 伯耆町立岸本公民館 伯耆町民岸本体育館 伯耆町農業環境改善センター 米子市文化ホール　鳥取県立米子西高等学校　米子コンベンションセンター

主　催　公益社団法人 日本女子体育連盟　鳥取県女子体育連盟

後　援　スポーツ庁　公益財団法人 日本学校体育研究連合会　鳥取県　鳥取県教育委員会
米子市教育委員会　伯耆町教育委員会　鳥取県高等学校長協会　鳥取県特別支援学校長会
鳥取県中学校長会　鳥取県小学校長会　鳥取県学校体育研究連合会
公益社団法人鳥取県体育協会　公益財団法人とっとりコンベンションビューロー

テーマ　「繋・個性と世代をつなぐ　そして未来へ　ーインクルーシブ教育を考える―」

内　容　(24日) 分科会 (保幼小連携、小中連携、学校から社会へ)　(25日) 全体会

参加者　全国の保・幼・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者 等

人　数　県外参加者95名、県内参加者194名、公開演技参加者153名、公開演技鑑賞者55名　計497名

参加費　6,000円

＜概　要＞

１日目(24日)は分科会が行われた。保幼小連携、小中連携の各分科会では、伯耆町岸本地区での公開授業と研究発表及び協議を行った。保幼小連携では鳥取短大の学生25名も熱心に参加した。小中連携では、表現の本質をどのように子どもに伝えるか等について活発な協議がなされた。学校から社会へ分科会は、特別支援教育、高等学校そして生涯スポーツが合同で、どのように個を活かし生涯にわたってダンス、そして生活を楽しむかをテーマに、まず、合同の３つの実技研修を行った。その後3つに分かれ、高等学校は公開授業と研究協議、他はそれぞれの実技研修を行った。

2日目(25日)は全体会が米子市文化ホールメインホールで行った。オープニング、開会式、JAPEW賞授賞式、特別講演(ウォルフガングシュタンゲ氏)、研究発表、公開演技、閉会式、そして閉会式後には、NHK東日本大震災復興ソング「花は咲く」を公開演技出演者全員に合わせ、客席の皆様も一緒に踊っていただいた。多くの方に支えられて大会を閉じることができた。

Ⅱ．女子体育に関する講習会及び育成事業

(1)サマーセミナー

JAPEW SUMMER SEMINAR 2017－平成29年度夏期講座－

□生涯スポーツ／授業・保育専門委員会(佐藤常務理事、高野常務理事、古関理事)

(公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業)

期　日　2017年8月12日(土)・13日(日)・14日（月）

後　援　スポーツ庁、東京都、(公財)日本体育協会、(公財)スポーツ安全協会、
(公財)ミズノスポーツ振興財団

会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター（NYC）

内　容　講演（開講式・講演)、ワークショップ（実技・理論）

参加者　全国幼保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者 等

参加費　生涯スポーツコース：2 日料金：会員 12,960 円、一般 15,120 円、学生 7,560 円
1 日料金：会員　6,480 円、一般 7,560 円、学生 3,780 円

※会員＝正会員・特別会員および『女子体育』定期購読者

学校体育コース　：1日料金：会員 6,480円、　一般 7,560円、　学生 3,780円

教員免許状更新講習（1 日間）　会員・一般　6,480 円

ＤＭＩＬクリニック（1日間）　有資格者 5,400円

ＤＭＩＬ養成講習会（3日間）　会員・一般・学生　16,200円

＜概　要＞

本年度のテーマは「ダンスがひらく学びの世界―主体・対話・創造―」とし、学校体育コースは「新学習指導要領にそったダンス指導法」、生涯スポーツコースは「ふりかえり　そして広げる」をそれぞれテーマに掲げ、8 月 12 日から 14 日の 3 日間開催された。昨年同様、学校体育コースは 1 日ごとの受講を可能とし、教員免許状更新講習も同時に開講された。生涯スポーツコースも今年度は 1 日受講が可能となり、また初の試みとしてサマーセミナー受講を外部の資格更新対象にする様式を取った。加盟団体から 1 名の無料参加を募り、12 団体が利用された。参加者の内訳は、学校体育コース 47 名（会員 23 名、一般 14 名、学生 10 名)、生涯スポーツコース 165 名（会員 92 名、一般 67 名、学生 6 名)、加盟団体枠 12 名の計 247 名であった。また、教員免許状更新講習は、50 名が受講した。

学校体育コース（教員免許状更新講習を含む）1 日目の講演は高田彬成氏による「新学習指導要領における表現・ダンス」であった。運動の価値を伝えること、学びの過程を重視すること、さらに学習者自身が「わかって、できる」ことが強調された。続くシンポジウムではダンス・表現の授業についての要点が提示され、課題としてリズム系の学習内容の整理・指導充実に向けた取組が必要である事が挙げられた。実技は安江美保氏による「小学生の表現・リズムダンス」で、カルタを使った楽しい授業展開、その他の実技講座でも創作ダンスや現代的なリズムのダンスのユニークな授業展開が紹介された。3 日目の平山素子氏による実技「イマジネイションの具体化による動きの洗練」では、投げかけられた言葉にひとり一人が夢中になって動き、新鮮で有意義な体験となった。

一方、生涯スポーツコースの 1 日目は産婦人科専門医の高尾美穂氏による「女性のエイジングと運動」で、女性ホルモン分泌の変動に伴う身体の変化や更年期障害についての講演、外部講師による実技では、「旋律と肉体のハーモニー」のテーマにそって振付師上田遙氏によるタンゴに挑戦し、視線や身体の使い方を学んだ。初日の最終単元では、両方のコースで復習・交流会が開かれ、受講者の熱心な姿が見られた。2 日目の東畑開人氏による「心の健康法 指導者のための心理学」では、社会が前向き過ぎる風潮で心が追い詰められる時に「ほどほどがよい」というご提言に多くの受講者が心をほっとさせたようだ。選択実習講座の「ダンスエアロ～要素を活かしたエアロビクスのダンス展開法～」（鈴木悠氏）は、簡単なエアロステップから自然に動きが展開し最終的には「コーヒールンバ」のラテンダンスに。「笑顔がつながるシナプソロジー～脳を活性化プログラム～」（増子俊逸氏）は、できそうでできない複雑な課題に思わず笑いが起こる和やかな講習となった。また、高橋眞琴参与を

はじめとする4組の内部講師による実技講習は、それぞれが『・・・から広がる』という共通テーマを持ち、様々なジャンルの音楽に合わせて、地方から参加される大勢の指導者達に新しい挑戦の場を提供した。

⑵未来世代の研究発表会

第61回未来世代の研究発表部門＆卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会（髙野常務理事、茅野理事）

期　日　　2018年2月11日（祝・日）
会　場　　国立オリンピック記念青少年総合センター（センター棟311、スポーツ棟第1･2体育室）
内　容　　①研究発表部門　＜第60回未来世代の研究発表会（卒論・修論・博論）＞
　　②卒業ダンス作品発表部門
参加者　　高校生、大学生、高校・大学の指導関係者、会員、一般
　　計　約200名
参加費　　発表者：1人1000円、参観者：研究抄録プログラム代500円（ダンス鑑賞者は必需）

＜概　要＞

この研究発表会は、3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による、研究（口頭発表・ポスター発表）とダンスの発表会である。今年度は口頭発表3題（博論1題、修論2題）、ポスター発表48題、ダンス発表8作品、ダンス招待校2校の発表があり、発表者（計82名）・指導教員・研究発表参観者・ダンス参観者（96名）を含め、計200名の参加人数であった。各大学において、ご指導下さった先生方に心より感謝申し上げたい。

今年度は、発表者一人あたりの参加費を昨年度までの500円から1,000円に変更した。参観者の研究抄録プログラム代は変わらず500円のままとした。また、小ホールが改修工事中で使用できないため、会場をポスター発表は第1体育室、ダンス発表は第2体育室に変更した。口頭発表は160人室での開催であったが、ポスター発表者もダンス作品発表者も参観し、人があふれるほどの盛況ぶりであった。ポスター発表は、広々とした体育室での開催と合って、ゆとりをもったパネル配置が可能となり、近くのグループの声が邪魔になることなく発表･聴講することができた。ダンス作品は移動式の観覧席を設け、舞台と客席がフラットになることなく、観客が発表を見やすくなる工夫を行うことができた。フィナーレでは招待校の大学生や高校生も参加して、ダンサーも観客も楽しめるひとときとなった。小ホールとの設備の違いはあったものの、体育館での実施も広い空間でゆったりと行うことが出来、発表者や参観者から好評を得ることができた。次年度も同じ場所での開催となるため、今回見受けられた反省点を次年度には改善し、運営において活かしていきたい。

⑶ダンスムーブメントセミナー　　□飯田常務理事、佐藤常務理事

広域連携推進事業／ダンスムーブメントセミナー2017 in 山口

共　催　　山口県女子体育連盟
期　日　　2018年2月17(土)・18(日)
会　場　　山口県スポーツ文化センター レクチャールーム
後　援　　スポーツ庁　（公財）日本学校体育研究連合会　山口県教育委員会
　　山口市教育委員会　山口県体育協会　（公財）日本教育公務員弘済会山口支部
講　師　　髙橋和子、八木ありさ、佐藤廣子、矢野道代（JAPEW-DMIL S級インストラクター）
　　飯田路佳
参加者　　県外38名、県内187名、見学者67名　講師等8名　計300名
参加費　　4,000円

＜概　要＞

山口県女子体育連盟および山口県 JAPEW-DMIL S 級指導員でもある矢野道代特別会員主宰の矢野健康体操研究会およびクラブのご尽力により、県内外の生涯スポーツ指導者・学校体育関係者等、　国内広範囲からダンスムーブメントに関心の高い 300 名もの方々が参集し、講義と実技の充実したセミナーとなった。さらに、多くの県から大勢が参加された懇親会では楽しく和やかな交流の時を共有することができた。温かなご配慮とつながりに感謝を申し上げたい。今回は今までよりも JAPEW と各県との絆を再確認する会ともなり、今後の活動へのヒントとなった。

(4)「ダンスムーブメント指導員」養成事業　(略称;JAPEW-DMIL)

□指導員制度専門委員会（飯田常務理事、佐藤常務理事、古関理事、小松理事）

①「ダンスムーブメント指導員」養成講習会〈A級－第14回、B級－第18回、C級－第21回〉

期　日　　2017年8月12日(土)・13日(日)・　14日(月)

会　場　　国立オリンピック記念青少年総合センター

主　管　　(公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内　容　　理論、実技　計21時間　　(※12日・13日はサマーセミナーAコース受講に代える)

講　師　　髙橋眞琴、飯田路佳、佐藤廣子、相澤勝治

受講者　　今年度資格取得希望者　A級2名、B級2名、C級4名　計8名

②「ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期　日　　2017年9月16日(土)・17日(日)・18日(月)

会　場　　国立オリンピック記念青少年総合センター

主　管　　(公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内　容　　理論、実技、指導実習　計19時間　　※検定試験

講　師　　髙橋和子、八木ありさ、細川江利子、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、飯田路佳、
佐藤廣子、寺山由美

受講者　　A級２名、B級２名、C級４名

合格者　　A級２名、B級２名、C級４名

検定委員　髙橋、八木、細川、片岡、高橋、林、飯田、佐藤、寺山

概　要　　本年も、優れた資質の指導員を輩出することができた。詳細は『女子体育』10・11月号で報告した。公認指導員現数は161名。

③「ダンスムーブメント指導員」クリニック

期　日　　2017年8月14日(月)

会　場　　国立オリンピック記念青少年総合センター

主　管　　(公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内　容　　実技研修

講　師　　片岡康子、髙橋眞琴、林眞幾子、八木ありさ、寺山由美

受講者　　A・B・C級 有資格者 57名

概　要　　本年も多くの公認指導員の参加があった。クリニックおよび養成講習会に関する詳細は『女子体育』12・1月号で報告した。

Ⅲ. 機関誌その他の学術刊行物の発行

(1)『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会（宮本常務理事、髙橋うらら理事、中村理事）

①刊行　隔月刊・年間６回とし、発刊は発刊月前月の25日発刊とした。
構成：通常号４本、特集号２本（ダンス指導解説特集号、AJDF報告特集号）

②方針　平成29年度も引き続き、通常号80頁、増刊号120頁、横書き、写真の掲載等、同様の方針で取り組んだ。

③購読料　年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円

④年間テーマ　「主体・対話・創造　ダンスがひらく学びの世界」

⑤月テーマ

○ 4・5月号（通常号）　「誰もが主役・みんなが主役」
○ 6・7月号（通常号）　「殻を破る・自分を広げる」
○ 8・9月号（特集号）　保存版ダンス指導ハンドブックⅧ
特集「ダンス指導のＱ＆Ａ・ダンス指導実践集」
○10･11月号　（特集号）「第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)報告特集号」
○12・1月号（通常号）　「多様な視点・こだわりの視点」
○ 2・3月号（通常号）　「日々を重ねる・未来へ繋げる」

(2)『学術研究』発行　□『学術研究』編集委員会（髙野美和子理事、中村理事）

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第34巻を刊行した。

Ⅳ. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

(1)全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)＜30th All Japan Dance Festival-Kobe＞

□AJDF-KOBE実行委員会(八木常務理事･平田理事､佃理事)

期　日　2017年8月7日(月)・8日(火)・9日(水)・10日(木)
会　場　神戸市／神戸文化ホール・神戸市立中央体育館
主　催　(公社) 日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会
主　管　第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 実行委員会
後　援　文部科学省、スポーツ庁、(公財) 日本体育協会、ＮＨＫ(日本放送協会)
(公財) 全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会
(公財) 神戸市スポーツ教育協会、(公財) ミズノスポーツ振興財団
(一財) 地域活性化センター
協　賛　(株) 日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社
協　力　(公財) ユーハイム・体育スポーツ振興会
内　容　①開会式
②創作コンクール部門(高校／予選・決選、大学／予選・決選)
③参加発表部門
④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品、ゲスト作品)
＊特別プログラムは大ホールにて2回公演　(入場料¥4,000)

表　彰　　文部科学大臣賞、ＮＨＫ賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1)、特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)

参加校数　①創作コンクール部門　高校/96　・大学/29　計125校
　　②参加発表部門　　高校/42　・大学/18　　計60校

参加人数　①創作コンクール部門　高校/1,726　・大学/448　計2,174名
　　②参加発表部門　　高校/　907　・大学/378　計1,285名

参加都道府県数　28

TV放映　　NHK Eテレ　8月19日(土)　14:00～15:00

その他　　・第20回大会記念DVD（20年間のテレビ放映映像を含む総集編)販売
　　・第30回大会のDVD(Blu-ray)販売の申し込み
　　・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号に報告

＜概　要＞

第1日目には、台風接近のため開会式が中止となったことを受け、計画外の対応を行う場面があったが、全参加校の顧問と選手代表が定刻通りに顧問会議に出席し、開会式で行う予定であった「選手宣誓、大会表彰杯の返還とレプリカ贈呈」を行うことができ、結束が高まった。開会式に上演予定であった10年間を振り返る「第30回記念映像」は受賞作品集DVDに収めて販売することになった。第2日目予選、第3日目決選、第4日目参加発表部門上演は、ほぼ予定通り行われた。第4日目の表彰式では松本千代榮名誉会長も登壇、特別プログラムでは「第30回大会記念ゲストパフォーマンス『Intermezzo -本気のはしやすめ-』」（近藤良平氏・平山素子氏・大前光市氏）が上演された。参加者数は延べ3,459人、参加校数は185校で概ね昨年並み。役員とスタッフは併せて195名（大会役員：総務・上演・アナウンス・審査・式典・受付・記録・DVD等販売・接待・会場・救護・警備：155名、サポちゃんズ：21名、舞台監督・照明・音響・アナウンス・写真・印刷等：19名）で運営に取り組んだ。参加都道府県の増加については今後も取り組んでいきたい課題である。音楽使用に関する著作権や美術品などの知的財産権に関わるルールについて情報収集し、「大会参加申込要項」に反映するようにした。

(2)国際的な研究交流事業　　□国際交流専門委員会(八木常務理事　田中葵委員長、原田理事)

① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

○国際女子体育連盟（IAPESGW）との連携

・2017年5月18日-21日に開催された第18回国際女子体育連盟（IAPESGW）マイアミ国際会議での開催内容配信及び現地実行委員会からの情報発信を行った。同会議では、2021年に第19回IAPESGW国際会議を東京で開催することが決定した。それに伴い、東京大会開催に向けて検討項目等をマイアミ国際会議参加者と検討した。

・国内におけるスポーツ・ダンス推進団体の日本代表である（公社）日本女子体育連盟会長・髙橋和子、NPO法人JWS(Japanese Association for Women in Sport）代表・小笠原悦子氏、WSFジャパン（女性スポーツ財団）日本支部事務局・高橋昭子氏との連絡調整を行った。

○JAPEW HPに「国際情報」ページを新たに設け、IAPESGWニューズレターを毎月配信している。またCID(International Dance Council　国際ダンス協議会)、IWG(International Working Group on Women and　Sports　女性とスポーツの国際ワーキンググループ）を中心とした、海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

②インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

期　日　　2017年4月30日（日）レクチャー：15:00-16:45 ワークショップ：18:00-21:00
会　場　　国立オリンピック記念青少年センター　センター棟・403 カルチャー棟・リハーサル室
主　催　　（公社）日本女子体育連盟
協　力　　Contact Improvisation Nihon Network（C.I.N.N.）

講　師　　Yang Seunghee（ヤン・スンヒ：Korean National University of Arts 所属）
内　容　　コンタクト・インプロヴィゼーション
参加者　　ダンスに関心のある学生、指導者
参加費　　学生 2,160 円　会員 3,240 円　一般 5,400 円
＜概　要＞　国際理解をより深めるために、実技とレクチャーを交えてワークショップを実施した。クラス前半では、講師の経歴及びアジア人として海外でダンスを学び、働いて得た経験談や、コンタクト・インプロヴィゼーションの理論等を伝えるレクチャーを実施し、後半にはコンタクト・インプロヴィゼーションの実技を実施した。参加者数は計 25 名（学生 16 名、会員 2 名、関係者 1 名、本部役員 2 名、当日役員 4 名）で、今日的なテーマと高度な講習内容を、より多くの会員に紹介でき、参加を促進できる方法について検討してゆく必要がある。事後に行ったアンケートから、レクチャーと実技とがあったことは意義深いものであったことが伺えた。一方、長時間にわたる開催であり都合のつかない参加者もいたため、部分的な参加も可能であることをチラシに掲載する等、広報の仕方に工夫が必要であった。2020 年の東京オリンピック・パラリンピック、2021 年の IAPESGW 国際会議東京大会開催に向け、ダンスを通じた国際理解と交流につながるワークショップの企画運営を実現していきたい。

③（公社）日本女子体育連盟活動情報の国外への発信
〇ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。
〇IAPESGW News Letter へ連盟の活動を投稿した。

Ⅴ．研究の奨励及び研究業績の表彰

JAPEW 賞顕彰　　□JAPEW 賞選考委員会（細川副会長、熊谷理事）

JAPEW 賞は社団法人日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、平成 24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代榮賞」が制定された。2017 年 5 月 28 日に各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。表彰者には、第 51 回全国女子体育研究大会（鳥取大会）開会式（11 月 25 日）において表彰状と副賞を授与し、顕彰した。なお、表彰者氏名は機関誌『女子体育』誌上および HP 上で公表した。

① 第４回松本千代榮賞 該当者なし
選考委員会（委員長）髙橋和子
（委　員）杉山重利、川口千代、片岡康子、村田芳子、笹本重子、細川江利子

② 第６回 JAPEW功労賞
受賞者　岡部和子氏（山梨県）、島袋厚子氏（沖縄県）、永野美代氏（高知県）
選考委員会（委員長）髙橋和子
（委　員）杉山重利、片岡康子、髙橋眞琴、林眞幾子、笹本重子、石澤宣子

③ 第14回 JAPEW指導者賞
受賞者　牛山眞貴子氏（愛媛県）、加藤惠津子氏（東京都）、斎藤淳子氏（千葉県）、
鈴木裕美子氏（福島県）、古田裕子氏（新潟県）
選考委員会（委員長）髙橋和子
（委員）山西哲郎、林眞幾子、細川江利子、飯田路佳、佐藤廣子、小松恵理子

④ JAPEW研究奨励賞　該当者なし
選考委員会（委員長）髙橋和子
（委員）金子明友、細川江利子、八木ありさ、髙野牧子、笠井里津子、茅野理子

VI. 広報・普及活動　　□広報・普及委員会（髙野美和子委員長）

(1)『女子体育』購読促進活動
・『女子体育』購読会員増員のための活動（広報・普及および編集専門委員会、事務局）を行った。
・新規及び継続会員獲得、新卒学生への購読推進及び購読期限切れ会員への対応を行った。

(2)企画・広報
・事業報告・事業計画・財務諸表（決算書・予算案等）の情報をHPに公開した。
・総会にて上映する平成28年度の活動映像を作成した。
・国際女子体育会議（マイアミ）にて上映するIAPESGW 2021 東京大会招致映像を作成した。
・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
・未来世代の研究発表会のエントリーをHP上で行った。
・加盟団体の情報をHPに掲載し、相互リンクを行った。

(3)『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』 第34巻を電子化しJ-STAGEに公開した。

(4)『JAPEWニューズレター』 NO.1を作成し、HP上に掲載した。

２）平成29年度決算報告（別紙資料）

・細川江利子会計担当理事より資料に沿って決算報告があった。
中村久子監事より監査報告があり、全会一致で承認された。

（３）その他

・「ダンスムーブメントセミナー2018in 沖縄」について高良氏（沖縄県代表）より告知があった。
・出席している 20 の各都府県代表より昨年度の活動報告と今年度の活動予定及び報告、また課題を含めた現状報告がなされた。
・各ブロックに分かれ地方理事選出、情報交換が行われた。
・高野牧子理事より、全国大会、サマーセミナーの開催について資料に基づき、説明がなされた。
・寺山理事より、広告協賛、「T シャツプロジェクト」について説明がなされた。
・八木副会長より「第 31 回 AJDF 文字広告協賛」について依頼があった。
・飯田理事より、「“ダンスチャレンジ！20200”プロジェクト（仮)」について説明がなされた。
※「“Welcome to TOKYO”を踊ろう！広めようプロジェクト（仮)」から名称変更

７．議事録確認　書記（田中安理特別会員、多田五月特別会員）による議事録の確認があった。

８．閉会宣言　細川江利子副会長

平成30年５月27日　議　長　会　長　髙橋　和子

署名人　岡山県女子体育連盟代表
岡本　悦子

特別会員　宮本　乙女